

氏名	藤井 健介
学位の種類	修士（鍼灸学）
学位記番号	鍼修第492号
学位授与の日付	令和6年3月12日
学位授与の要件	大学院規則第30条および学位規程第4条該当
学位論文題目	大学入学時の自己効力感が科目の点数に及ぼす影響
指導教員	伊藤 和憲

## 学位論文の要旨

### 【目的】

自己効力感とは、個人が特定の課題や目標に対して自分の能力をどれだけ信じているかという信念の一つであり、成績は個人が学業においてどれだけ成果を上げるかを示す指標である。そのため、これらの要素は密接に関連しており、自己効力感が個人の学業成績に影響を与えると考えられている。他方、自己効力感に影響を与える因子としては様々なものがあるが、その1つに体調がある。特に東洋医学的な健康観である未病は、症状が現れる前から体調変化を知ることができることから、自己効力感に影響している可能性が高い。そこで、本研究では環境変化が大きい大学1年生を対象に、自己効力感と体調が科目の点数に及ぼす影響を検討した。

### 【方法】

鍼灸学部1年生46名のうち、アンケート結果に不備があった11名を除く35名(平均年齢18.0±0.2歳)を対象とした。方法は、調査回数は計3回(4月、5月、7月)実施し、自己効力感を示すGSES、東洋医学的な体調を把握するYOMOGI+をGoogleフォームで記入してもらった。また、科目の点数については、暗記科目である解剖学と理論科目である生理学に関する前期期末テストの成績を利用した。なお、解析は、各評価の値と成績の相関、各評価の変化量と成績についてSpearmanの順位相関係数により検定した。

### 【結果】

自己効力感と科目の点数、自己効力感と体調に関して、各時期・変化量とも相関と有意差は認められなかった。しかし、自己効力感と体調については、4月のGSESとYOMOGI+に弱い相関( $r=0.375$ ,  $p=0.026$ )が認められた。

### 【考察】

今回、科目の点数と自己効力感や体調には関係が認められなかった。その理由として、今回の成績結果が正規分布しておらず60点以上に偏っていたため、自己効力感や体調の変化を上手く反映できなかった可能性があった。このことから、今後は学業評価を工夫するなどの改善が必要であると考えられた。一方、4月の自己効力感と体調に有意な相関が認められたが、大学入学直後は高校生までの生活を反映しており、学生の基盤となる状態であると考えられることから、基本状態には自己効力感と体調には相関がある可能性が考えられる。しかし、他の月に相関が認められなかったのは、大学生活に突入し、部活動や人間関係、アルバイトなど高校生活とは異なる複雑な因子が自己効力感や体調に影響を及ぼしている可能性があると考えられた。